美幌博物館　月刊情報誌

GREEN LETTER
グリーンレター

Vol.310
2023/3/01

今月の一枚
今月のイベント
参加者募集
GREEN COLUMN
01. それぞれの“季節の花”
02. 電話に思うこと

今月の一枚

Photo

「3 月のメルヘンの丘」

表紙写真・文／松田真莉子

昨年の３月中旬は、美幌へ越してきたばかりでした。引越しの片付けもほぼ終わった頃、近隣の美術館や博物館を見ておこうと、網走市立美術館へ向かいました。道中、偶然通りかかったメルヘンの丘は、どのように切り取っても絵になる風景で、思わず車を停め写真を撮りました。

あれからもうすぐ１年。目まぐるしい日々ですが、そのぶん、とても充実した毎日を過ごすことができています。

Event. 今月のイベント

企画展「冬季作品展」　～3月5日（日）

ロビー展「ひな祭りとひな人形」　～3月3日（金）

プチ工房「プラバンアクセサリー」　3月17日（金）, 18日（土）

博物館講座（総合編）「私たちのふるさと情報」　3月25日（土）

特別展「カメラは見た！動物たちの素顔」　3月25日（土）～10月22日（日）

Information. 参加者募集

プチ工房「プラバンアクセサリー」

● 3/17㈮, 18㈯ ① 10:00 開始 , ② 11:00 開始 , ③ 14:00 開始 , ④ 15:00 開始 , 所要時間 30 分
※作品ができ次第終了 ●美幌博物館 1 階 講座室 ●参加費 300 円 , マスク ●八重柏誠（美幌博物館）
●美幌博物館へ電話申込み (-3/16)。各回定員 12 名で締切。小学 3 年生以下は保護者の同伴が必要 。
定員に達しない場合は当日参加も可能です。

博物館講座（総合編）「私たちのふるさと情報」

● 3/25㈯ 10:00-11:40 ●美幌町民会館 1F 小ホール ●無料 , マスク ●美幌高等学校生徒 , 塩谷悠希氏 (北海道大学大学院), 美幌博物館学芸員●美幌博物館へ電話申込み (3/1-24)。小学生以下は保護者の同伴が必要 , 定員 50 名で締切 , 定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため , 発熱がある , あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは , 内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により , 一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上 , ご参加ください。

3 月の休館日

6 日 , 13 日
20 日 , 22 日
27 日

〈凡例〉●日時 ●場所 ●費用 , 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN
グリーンコラム

それぞれの“季節の花”

写真・文／松田真莉子

学生時代、東京に住んでいた私は、2月上旬には梅が咲き始めることを知って驚きました。というのも、北海道では、梅は桜とほぼ同時に5月頃開花するからです。春が遅い寒冷地では、ひな祭りの時期になっても、梅の蕾（つぼみ）は開く気配を見せず、桜も卒業式や入学式に間に合いません。

このように花ひとつをとっても、生まれ育った地域の気候や風土が、人々の想起する出来事やイメージに影響を与えているのではないでしょうか。そんなことを考えながら、今回は、道東ゆかりの画家 松樹路人（まつきろじん）の《梅咲く》という油絵をご紹介します。

本作には、鮮やかな青色を背景に、曲がりくねった黒い幹をもつ白梅の樹が、三本描かれています。梅が立っているのは、おそらく丘の下でしょうか。左上部には、小さな白雲がかすれた粗い筆触（ひっしょく）で描かれ、空と丘の境界は水平に区切られています。白梅は激しい筆遣いと厚塗りで表現されていますが、花びらのしっとりとした質感が感じられます。やや誇張された梅の形態と、空と丘を分かつ直線は、目に映る現実の景色というより、作者の心象風景のようです。

松樹が描いたのは、北海道の梅か、中学の頃に転居した東京の梅なのかは知る由もありませんが、額縁の裏には、「路人」のサインとともに「一九六二・五」という日付が記されています。これは、「私は1962年の5月にこの作品を描きました」という、作者からのメッセージです。幼少期を北国で過ごした松樹にとって、梅はやはり”5月の花”だったのかもしれません。

本作は、F6号（横41.0 × 縦31.8cm）の小さな作品ですが、とても見応えがあります。折りに触れて公開しますので、どうぞお楽しみに！

02 GREEN COLUMN
グリーンコラム

電話に思うこと

写真・文／八重柏誠

毎年、２月上旬から３月上旬にかけて、町内外の小学３年生が博物館にやってきます。昔の道具について学ぶためです。そんな子どもたちに向けて、私が最初に紹介する道具が電話です。

美幌町では大正５（1917）年 12 月に電話が使えるようになりました。当時の美幌町市街地の写真を見てみると、大正４(1916)年まで見られなかった電信柱が、それ以降になると立ち並んでいるのがわかります。その当時、使われていたのがデルビル磁石式壁掛電話機です。人の顔のように見えるユニークなデザインが特徴的です。漫画やアニメーションに登場する昔の電話の定番のような存在であることから、児童にとって珍しいけれど、見たことのあるモノのようです。この電話の使い方を質問してみると、意外にも電話交換手の存在を知っている児童がおり、やはりアニメーション等で電話を取り次ぐ様子を見ているようでした。

ダイヤル式電話機も、最近ではすっかり見られなくなりましたが、子どもたちの祖父母の家には、まだあるよという声が聞かれました。ダイヤルの回し方を知っている児童もいるようです。

体験学習では、蓄音機でレコードを聴いたり、古いカメラやテレビを観察したりと、短い時間の中で様々な道具について調べ、わかったことを記録していきます。最後に、今の道具の話になるのですが、電話はもちろん、音楽や写真撮影、動画視聴、ゲームなど様々なことをスマートフォンで行うことができるようになりました。もはや電話としての機能は、おまけと言えるかもしれません。近い将来、電話という言葉自体が使われなくなる、そんな予感すらしています。

【発行】
美幌博物館

【デザイン・編集】
城坂結実・八重柏誠

【お問い合せ先】
美幌博物館
北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4
Tel ／ 0152 (72) 2160　Fax ／ 0152（72）2162
mail ／ museum@town.bihoro.hokkaido.jp
http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/
無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき

毎週水曜日の夜は娘のスキースクールの日。終業時間とともに娘をスキー場に連れていくのですが、運動不足解消と娘の上達具合を確認するために私も横で滑っています。リリー山スキー場から見る美幌の夜景は格別です。（八重柏）